

# FUJIEDA ROTARY CLUB Weekly Bulletin

例会：毎週水曜日 小杉苑 藤枝市青木2-2-48 TEL 054-641-3321  
 事務局：藤枝市青木1-9-16 TEL 054-647-2300 FAX 054-647-2040  
 E-mail club1972@fujieda-rotary.org



鵜

写真提供：山田昭雄君

会長：村松英昭 副会長：小宮弘一郎  
 幹事：後藤 功 副幹事：青島 彰

2006-2007年度  
RIテーマ

## 第1706回

LEAD THE WAY

率先しよう

<ソング> 君が代・奉仕の理想  
 <ソングリーダー> 池ノ谷 敏正君

ウィリアムB. ボイド

### 会長報告

村松 英昭君

今月は識字率向上月間です。RI会長ウィリアム・ボイド氏によりますと「識字 - 自立への贈り物」向にも増して、文字を読めることは、貧困から脱却するための手段です。それは自立への贈り物で、世代から世代へと引き継ぐことができるものです。読み書きのできる両親は読み書きのできる子どもを育てるので、一度家族が読み書きを覚えると、そこには識字が定着します。読み書きのできる両親は、より健康な子どもを育てる可能性が高く、そういった子どもの可能性は、彼ら自身の家庭や村の外にまで広がります。識字率向上は、文字通り新しい世界を切り開くのです。と言っています。

私の記憶によりますと、20年程前、地球上からポリオ（小児麻痺）を撲滅しようと後進国の子供にポリオワクチンを投与する事業を行なっていく上において識字率が問題になりました。

文字を読めない親に、ポリオプラス事業を伝える手段がありませんでした。

そのため、ポリオワクチンの投与をうけられない子供が大勢出現しました。その結果、地球上よりのポリオ撲滅が困難になりました。

そこでこの事業を遂行するためには識字率の向上が必要になり、RIが識字率向上に取り組むようになった経緯があります。

会員の皆様、識字率の向上への取り組みに御理解の程お願いします。

### 幹事報告

後藤 功君

- 地区ガバナーエレクト及び地区協議会実行委員長より、2006～2007年度地区協議会のご案内が届いております。

開催日 4月22日（日曜日）

会場 沼津市民文化センター

ホストクラブ 沼津北ロータリークラブ

- 「ザ・ロータリアン」3月号、英語版が届いております。

### 出席報告

青島 彰君

本日のホームクラブ出席者	前回の補正出席者
27 / 40 67.5%	34 / 40 85%

(1)欠席者（事前連絡とメイクアップをどうぞ）

○岩田君 ○杉山君 ○成瀬君 浅川君 飯塚君  
 板倉君 桜井富君 鈴木舜君 竹田君 仲田晃君  
 望月晃君 望月志君 渡辺君

### ビジター

藪崎 宰一君（藤枝南）

### スマイルBOX

青島 彰君

- 会員誕生祝有難うございます。会員増強がはかどらず眠れない日々が続いています。皆様のご協力を……………。
- 夫人誕生祝有難うございます。年を重ねる度に力関係が逆転してゆくようです。青島 克郎君
- 夫婦そろっての誕生祝いありがとうございました。年々誕生日がくるのが早まっている気がす

るのですが、気のせいでしょうか？

池ノ谷 敏正君

- 愚妻、知子に誕生日お祝い有難うございます。  
石垣 善康君
  - 夫人誕生・結婚記念のお祝いありがとうございます。  
栗原 毅君
  - 結婚祝ありがとうございます。43周年となりました。  
小西 啓一君
  - 3/26、結婚記念日です。  
村松 英昭君
  - 32回目の結婚記念日良くガンバっています。  
これからガンバります。  
松葉 隆夫君
  - お祝品をありがとうございます。結婚して44年が経ちました。夫婦共それなりに健康で暮らしております。これからも身体には気をつけて生活してゆきます。  
水野 義猛君
- スマイル累計額 686,268円

### 出席委員会卓話

出席委員長

青島 彰君



『出席率向上について』

出席率向上に益々努力をお願い致します。

静岡第5分区全9クラブ中最下位、第2620地区全83クラブ中第79位です。

(2007年1月現在)

◇ 省エネ住宅とは

省エネ住宅とは一言でいえばエネルギーロスを少なくし、且つ快適性を重視した住宅のことである。本格的な省エネ住宅であると建設コストなどはかかるがエネルギーロスが少ない分、光熱費は一般住宅に比べ低く押さえることができる。資源節約、地球温暖化防止などの時代の要請に合う住宅なので建設の際には公的融資の割り増しも受けやすい。ソーラーハウスなども省エネ住宅の一種である。

省エネ住宅は一般には断熱材を厚くし、窓ガラスを二重にするなど断熱性、気密性を高めた住宅と理解されているがそれだけでなく、気密性を高めながら換気能力を満足させるなど一見相反する機能を併存させなければならない。冬の暖房は一般的なものに比べより効果の高いもの、例えば床暖房に代表されるような遠赤外線暖房などが望ましい。夏場は風通しよくし、日射を有効に遮ることで、できるだけエアコンに頼らないで過ごせるようにする。

おのずと省エネ住宅は一般住宅に比べそれらの機能を満足させるためプランや外観デザインに特色がある例も多い。わが国は地形上地域によって温度及びその変化、降雪量などが著しく違う。基本的に6地域に分けて省エネ基準が制定されているが、地域ごとの気候にあった省エネ住宅のプラン設計ができれば結果として満足のゆく生活投資となる。

◇ 冬夏どちらにも期待できる効果

一般に建物の断熱性を良くするとは室内保温性確保による冬場の暖房費節約を意味することになるが、夏場の冷房費の節減にもメリットがある。省エネ住宅においてはできれば夏場は冷房無しでも快適に過ごせることを目的としたいのだが、外部の騒音、悪臭、塵埃などを防ぐ必要がある環境に立地する場合、100%冷房を排除することは現実的とはいえない。故に夏場は風通しの良さによる快適性ととも窓を密閉したときの冷房効果を確保することにも配慮が必要となる。省エネ住宅では外部の熱気を高い断熱性と気密性で遮ることにより一般住宅に比較し効率の良い冷房が実現できる。

◇ 室内温度差減少による快適性の向上

断熱性を高めることのメリットは光熱費削減だけでなく室内環境の快適性向上にもつながる。この快適性とは室内の温度差を緩和することで実現できる。室内温度差とは温度の高い空気は天井側へ、反対に冷たい空気は床側へ移動する性質のこ

とをいう。高い断熱性を確保できるとこの温度差が小さくなり、例えば暖房時は頭の方が熱く、足の方はなかなか暖まらないということが無くなり逆に冷房時、足だけがやけに冷えるようなこともなくなる。結果的に冷暖房の効率が上がるので費用の節約にもつながる。

(担当 / 増田)